

## 信用金庫の貸出金利回りの動向

信金中央金庫 地域・中小企業研究所 上席調査役

とね かずゆき  
刀襦 和之

(ポイント)

- 全国信用金庫の2013年度の貸出金利回りは、前期比0.11ポイント低下の2.01%となり、6年連続で前期を下回った。2003年度と比較すると、0.59ポイントの低下である。
- 他業態の貸出金利回りの変化幅をみると、2003年度比で都市銀行が0.45ポイント、地方銀行が0.63ポイント、第二地銀は0.81ポイント、それぞれ低下した。
- 2013年度の地区別の貸出金利回りは、全11地区で前期比低下した。貸出金利回りの水準は、東海の1.75%から南九州の2.73%まで地区によって差がみられる。
- 信用金庫別の貸出金利回りは、8金庫で前期から改善したものの、9割超の259金庫で前期比低下した。利回りが改善した8金庫のうち4金庫はカードローン等の残高が増加している。
- 2013年度の信用金庫別の貸出金利回りは、①2.0%未満が81金庫、②2.0%以上2.2%未満が89金庫、③2.2%以上3.0%未満が86金庫、④3.0%以上が11金庫となった。2003年度と比べると、2.0%未満の信用金庫が0金庫から81金庫になるなど、利回り低下が急である。

### 1. 全国信用金庫の貸出金利回り

#### (1) 貸出金利回りの推移

全国信用金庫の2013年度の貸出金利回りは、前期比0.11ポイント低下の2.01%となり、6年連続で前期を下回った(図表1)。直近のピークとなる2007年度から0.62ポイントの低下である。

業態別の貸出金利回りの推移をみると、信用金庫以外の3業態とも2007年度以降、利回りが低下している<sup>(注)</sup>。2003年度からの変化幅は、都市銀行が0.45ポイント、地方銀行が

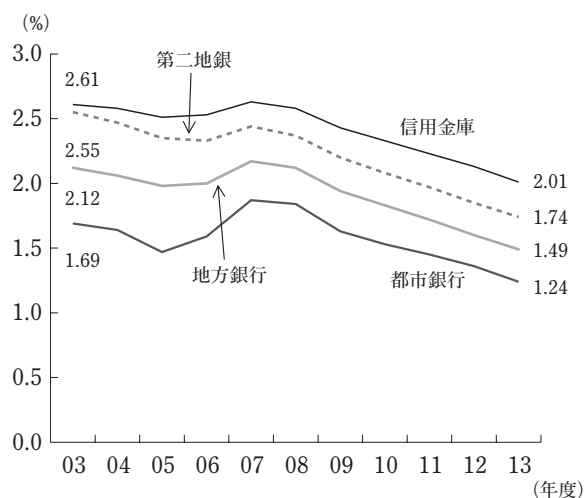
0.63ポイント、第二地銀は0.81ポイント、それぞれ低下した。4業態を単純に比較すると、第二地銀の利回り低下が目につく。

#### (2) 預貸金利鞘の推移

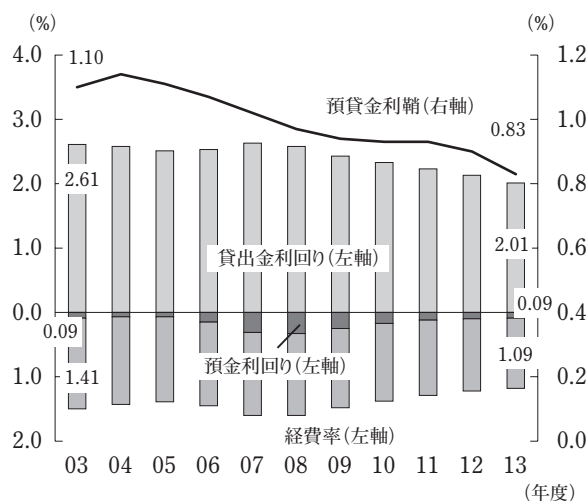
2013年度の預貸金利鞘は、前期比0.06ポイント低下の0.83%となった(図表2)。2003年度(1.10%)からの推移をみると、0.27ポイントの低下である。これは、預金利回りが下げ止まるなか、経費率の改善を上回る貸出金利回りの低下が続いたことによる。

(注). 他業態は「全国銀行財務諸表分析」(国内業務部門)を参照

図表1 業態別の貸出金利回りの推移



図表2 預貸金利鞘の推移 (信用金庫)



## 2. 信用金庫の地区別の状況

2013年度の地区別の貸出金利回りは、全11地区で前期比低下した (図表3)。

地区別では、東海が最も低い1.75%で、最も高い南九州は2.73%となるなど、地区により利回りの水準が異なる。「名古屋金利」と称される東海は、2002年度以前より全国で最

も低い貸出金利回りが続いている。

また、2013年度の預貸金利鞘をみると、東海が0.61%にとどまる一方で、四国(1.40%)、南九州(1.22%)、東北(1.10%)は1.00%を超えた。

## 3. 信用金庫別の貸出金利回り

### (1) 前期からの変化

2013年度の信用金庫別の貸出金利回りは、

図表3 地区別の貸出金利回り

(単位：%)

地区	03年度	12年度	13年度	(参考13年度末)					
				03年度対比	12年度対比	預貸金利鞘	住宅ローン比率	カードローン等比率	地公体向け貸出比率
北海道	2.51	2.10	2.01	△ 0.49	△ 0.09	0.92	18.6	0.6	19.7
東北	3.00	2.46	2.35	△ 0.64	△ 0.10	1.10	18.7	2.7	13.1
東京	2.58	2.16	2.05	△ 0.53	△ 0.11	0.86	22.0	0.2	0.5
関東	2.67	2.16	2.04	△ 0.62	△ 0.11	0.85	25.7	0.7	7.2
北陸	2.56	2.17	2.05	△ 0.50	△ 0.12	0.84	23.1	1.2	17.1
東海	2.30	1.84	1.75	△ 0.55	△ 0.09	0.61	28.8	0.6	7.3
近畿	2.63	2.13	1.98	△ 0.65	△ 0.15	0.85	22.8	0.7	8.2
中国	2.75	2.26	2.16	△ 0.58	△ 0.09	0.85	21.5	1.4	9.4
四国	3.25	2.65	2.58	△ 0.67	△ 0.07	1.40	24.1	3.2	7.8
九州北部	2.82	2.40	2.32	△ 0.49	△ 0.07	0.92	22.8	1.4	5.1
南九州	3.39	2.82	2.73	△ 0.65	△ 0.09	1.22	16.4	2.3	8.3
合計	2.61	2.13	2.01	△ 0.59	△ 0.11	0.83	23.9	0.8	7.3

- (備考) 1. 他業態との合併等は考慮していない。  
 2. 対比は小数点第3位以下まで用いて計算後に第3位を切り捨てている。  
 3. 沖縄県は合計に含む。

前期比上昇が8金庫（構成比2.9%）、前期比低下は259金庫（97.0%）となった（図表4）。

259金庫のうち、前期比0.1ポイント超低下したのは128金庫（47.9%）、さらに0.2ポイント超低下したのは6金庫（2.2%）あった。

一方、貸出金利回りが前期比上昇した8金庫の属性をみると、預金規模が7,000億円未満で、ほぼ全国に分布していた。また、4金庫でカードローン等の残高が増加している。

図表4 信用金庫別の貸出金利回りの変化  
(12年度→13年度)

(単位：金庫、%)

増減率	金庫数	構成比
上昇	8	2.9
低下	259	97.0
（うち0.1ポイント超低下）	128	47.9
（うち0.2ポイント超低下）	6	2.2
合計	267	100.0

## (2) 分布の変化

2013年度の信用金庫別の貸出金利回りの分布状況は、①2.0%未満が81金庫（構成比30.3%）、②2.0%以上2.2%未満が89金庫（33.3%）、③2.2%以上3.0%未満が86金庫（32.2%）、④3.0%以上が11金庫（4.1%）となった（図表5）。

2003年度と比べると、2.0%未満の信用金庫数が0金庫から81金庫になった。この81金庫のうち、1.8%未満が28金庫に達するなど、利回りの低下が急である。

図表5 信用金庫別の貸出金利回り

